



好酸球性肺炎

【概要】

一般的な肺炎は細菌やウイルスなどの病原体が肺の奥にある小さな袋状の部分（肺胞、はいほう）に感染して引き起こす炎症ですが、アレルギーと関わりが深い白血球の一種である好酸球によって引き起こされる特殊な肺炎を好酸球性肺炎と呼びます。細菌による肺炎ではないので抗菌薬（抗生物質）は効きません。せきや呼吸困難で診療所を受診し、胸部エックス線検査や血液検査で一般的な肺炎と診断され、抗菌薬で治療されてもよくなるため呼吸器の専門医に紹介されてくることもしばしばあります。薬物やカビ（真菌）がアレルギーの原因物質（抗原）であることもあります。抗原が不明であることも少なくありません。

【症状】

通常の好酸球性肺炎は、数日から数か月でせきや発熱、だるさなどの症状が生じます。ぜんそくのようなヒューヒュー、ゼーゼーした音（喘鳴、ぜんめい）が生じることもあります。

【検査】

胸部エックス線検査や胸部CT検査では肺の複

数の部分に肺炎様の陰影がみられます。血液検査では好酸球が増加していることが多く、気管支内視鏡検査で肺の洗浄液や生検組織に好酸球がみられることが診断の決め手になります。

【治療】

原因物質が特定できる場合は、それら除去・回避することによって自然に軽快しますが、自然軽快し難い場合や、原因物質が不明の場合はステロイド薬による治療をおこないます。ステロイドは一般的によく効きますが、薬の量を減らしていく過程で再発することがあり、数か月から数年間にわたるステロイド療法が必要となります。

【特殊な病型】

まれですが、数日の経過で急速にせきや呼吸困難が出現し、胸部エックス線検査で左右の肺ともに真っ白にみえる急性好酸球性肺炎とよばれる病型があります。我が国では喫煙をはじめたばかりの若年者が多いことが知られています。タバコの煙に含まれる未知の成分に対するアレルギー反応と考えられます。

MEMO

日本呼吸器学会では学会ホームページにて「市民のみなさま向け」に様々なコンテンツを公開しています。ぜひご覧ください！



呼吸器の病気

Respiratory disease

『疾患別』に症状や、診断・治療方法を解説しています。

呼吸器

Q&A



『症状から』対応方法などをQ&A形式でお答えします。

※ここに書かれている内容は、あくまで一般的なものであり、必ずしも貴方の病気にあてはまらない事もありますので、この内容を参考にし、呼吸器の専門医の診察を受けてください。

日本呼吸器学会
ホームページ

www.jrs.or.jp/